

Vol.88

Vol.88 (2021年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence/PM事例・知識 … 3

Activities/支部活動 …………… 14

PM Calendar/PMカレンダー …………… 17

Fact Database/データベース …………… 18

Editor's Note/編集後記 …………… 22

Best Practice and Competence / PM事例・知識

◆委員会・部会活動内容紹介

1. ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 3
代表 大久保 剛
 2. SDGs スタートアップ研究分科会 6
SDGs スタートアップ研究分科会 代表 稲葉 涼太
 3. PMBOK® セミナープログラム 9
PMBOK® セミナープログラム 代表 高田 善教
- ◆東京2020オリンピック ボランティア 11
武蔵大学 経済学部三年 成木 日奈子, CAPM®

Activities / 支部活動

- ◆PMI日本フォーラム2021 結果報告 14

PM Calendar / PMカレンダー 17

- PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 18

Editor's Note / 編集後記 22

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

委員会・部会活動内容紹介

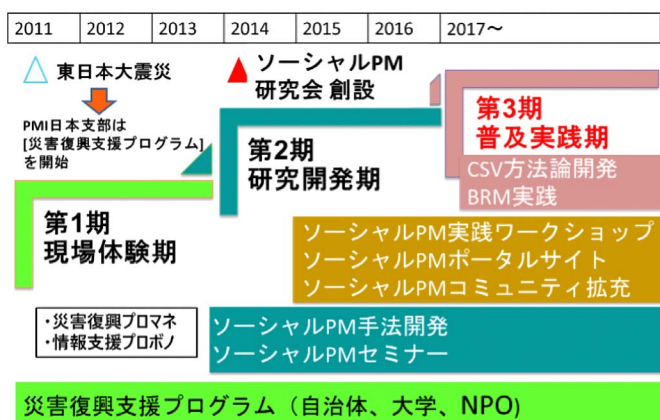
1. ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

代表 大久保 剛

◆ 生い立ちと発展

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会は、2014年に創設され、今年で7年目になります。そのきっかけとなったのは、さらに3年遡った2011年4月にPMI日本支部の有志が立ち上げた東日本大震災の復興支援プログラムでした。そこに参加したメンバが現地で体験・体感したソーシャル課題特有の難しさを類型化・整理し、それらを解決するためのソーシャル・プロジェクトマネジメント方法論を試行錯誤で開発しました。2017年からはCSV（Creating Shared Value）やBRM（Benefit Realization Management）の考え方を取り入れて、SDGs実践を目指す団体／企業の要望にも応えられる内容に手法をアップデートしました。

図1 ソーシャルPM研究会の生い立ちと発展



◆ ミッションとビジョン

当研究会では以下のミッションとビジョンを掲げ、ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法の研究・開発・普及・実践などを行っております。

< ミッション >

「社会課題の解決を目的とする活動（ソーシャル・プロジェクトと呼ぶ）」に適するプロジェクトマネジメント手法を開発し、普及することによって社会の発展に貢献する。

< ビジョン >

「世界中に安定した社会の持続を」
ソーシャル・プロジェクトマネジメントにより、社会課題が解決されて安定した社会が持続される。

◆ ソーシャル・プロジェクトマネジメントの必要性

皆さんは、『『ソーシャル・プロジェクトマネジメント』なんて、ボランティア団体や公共事業にしか関係ないだろう?』と思われていませんか? 近年は一般企業においてもCSV(Creating Shared Value)すなわち「共通価値の創造」の重要性が叫ばれるようになり、経済価値と同時に社会価値を向上させることが求められています。SDGsに取り組む企業が増えていることもその証拠です。今まさに「社会課題解決のためのプロジェクトマネジメント」=ソーシャル・プロジェクトマネジメントが必要とされていると言えるのではないのでしょうか?

◆ ソーシャルPM手法とワークショップのご案内

では、ソーシャル・プロジェクト特有の課題とは何でしょうか?

当研究会では以下のように整理しました。

- ① ニーズ把握とゴール設定が困難、
- ② 思い通りに進まない、
- ③ ステークホルダーが様々である、
- ④ プロジェクトの成果が見えにくい、
- ⑤ 優先順位がつけられない、
- ⑥ 持続可能性に問題がある

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

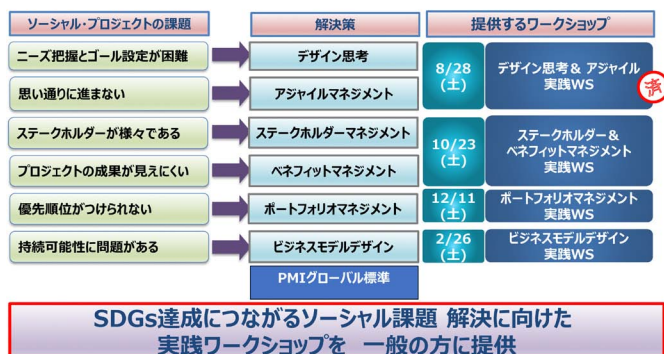
さらに、上記課題に対する解決策、即ちソーシャル・プロジェクトマネジメント手法として以下を創出しました。

a) ソーシャル・デザイン思考、b) ソーシャル・アジャイルマネジメント、c) ソーシャル・ステークホルダーマネジメント、d) ソーシャル・ベネフィットマネジメント、e) ソーシャル・ビジネスデザイン

2021年は「ソーシャル・プロジェクトマネジメント実践ワークショップ」と題し、これらの6つの手法の学びの場を全4回シリーズとしてオンライン形式で提供しています。PMI日本支部の非会員の方も対象としており、1回のみの参加も可能です（おかげ様で第1回の8/28は満員御礼、大盛況でした）。

図2 ソーシャルPM手法とワークショップのご案内

- ソーシャル活動の課題や知見・経験をもとに創出したPM手法
- PMI標準を基にソーシャル活動に適した最新の知識を反映



◆ 研究会の活動体制と概要

当研究会の活動体制は、4つのワーキンググループ（以下WGと記載）とPMOで構成されています。

WG1： ソーシャル課題や解決手法の動向調査を行う事例調査WG

WG2： ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を開発し、ワークショップとして提供する**方法論研究開発WG**

WG3： 研究会の活動・成果を情報発信、ソーシャル・プロジェクトマネジメントのコミュニティ成長に関する施策立案と実施を行う**コミュニティマネジメントWG**

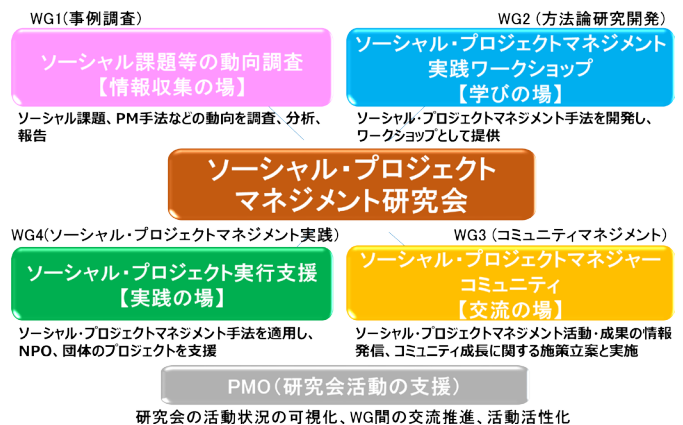
WG4： ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を適用し、NPO・団体等の支援を行う**実践WG**

PMO： 研究会活動の可視化、WG間の交流推進、活動活性化

研究会メンバは、興味のあるWGに所属しつつ、希望するプロジェクトが立ち上がる都度、自由に参加する形式で活動を行っています。

図3 ソーシャルPM研究会の活動体制

4つのワーキンググループとPMOで活動し、様々な「場」を提供



◆ 特徴的な活動プロジェクトの紹介

当研究会の実践的な活動である特徴的なプロジェクトを3つご紹介します。

1) 大学向け講座提供プロジェクト

2019年より某大学経営学部にてソーシャル・プロジェクトマネジメント講座を開設し、大学生に対する教育活動を行っています。数名で講師チームを編成し、オムニバス形式で授業を行うことにより講師一人当たりの負担を軽減し、パラレルキャリアの実践をサポートしています。

2) Globalization Project

日本語が話せないカメルーン出身の方が入会したことをきっかけに、ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法の講義・演習を英語で行っています。グローバル・プロジェクトに興味があるメンバや英語の上達を目指すメンバなどを中心に、“日本発のソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を全世界へ普及させたい”という大きな野望の実現に向けて、まずは一歩踏み出したところです。今後は手法の英語教材の作成、海外団体の支援なども視野に活動中です。

3) NPO向け組織運営支援プロジェクト

研究会創設当初よりお付き合いのある 災害支援関連のNPOに対して、組織運営に関する支援活動を行っています。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

ソーシャル・プロジェクトマネジメントの習得や手法の更なるブラッシュアップを目指すメンバが集い、「リーンキャンパス」、「ロジックモデル」、「ベネフィットリスト」などのツールを活用して、組織活動の可視化、短／中／長期の活動計画策定支援、進捗や成果の測定や評価の支援などを実施しています。

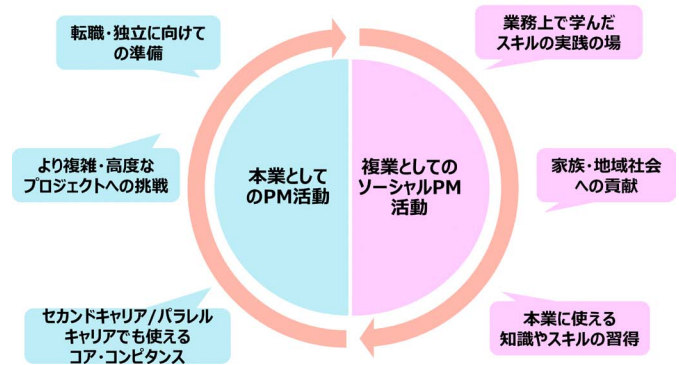
◆入会のお誘い

当研究に参加し、皆様のPMスキルを一生使える「ライフスキル」にアップグレードしませんか？

本業のPM活動で得た知見を パラレルキャリアとしてのソーシャルPM活動に活用し、さらに ソーシャルPM活動を本業にフィードバックする好循環サイクルを生み出すことを一緒に目指しましょう。

図4 あなたのPMスキルをライフスキルへ

人生100年時代。あなたのPMスキルをライフスキルにアップグレード



当研究会は月に2回 以下の日程で定例会を開催しています。
見学だけでも大歓迎ですのでお気軽にご参加下さい。

・月例会：

毎月第1月曜日 19:00～21:00 ZOOM開催

・ワーキンググループ会：

毎月第3火曜日 19:00～21:00 ZOOM開催

2. SDGs スタートアップ研究分科会

SDGs スタートアップ研究分科会 代表 稲葉 涼太

◆SDGs スタートアップ研究分科会について

SDGsの重要性が世界中で提唱され、日本においても企業・行政・教育機関・NPO等が事業を行う上で重要なテーマとなっています。また、PMIでもグローバルで年間100,000時間をSDGsに使うことをコミットしました。

PMI日本支部においても2019年度より、内閣府が設立したSDGsのマッチングプラットフォームである『地方創生SDGs官民連携プラットフォーム』の中にSDGsスタートアップ研究分科会を設立しました。

設立の背景としては、SDGsが社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGsを絵に描いた餅にしないためには実際にSDGsを事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs事業の取り組みを始めようとしても立ち上

げ推進が中々効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。「How To Achieve SDGs」のためにSDGs事業に即したプロジェクトマネジメント手法の普及・促進を目的として分科会を設立しました。

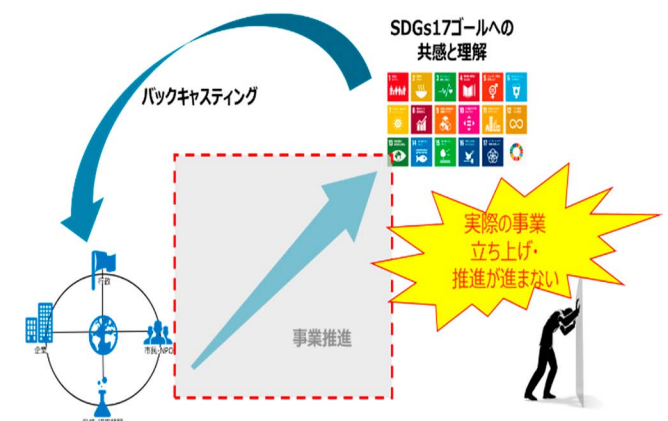
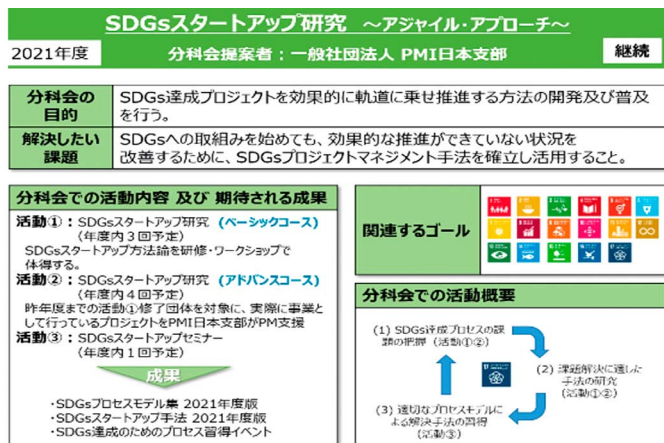
◆SDGs 事業の課題認識

SDGsの目指す社会課題の解決には、誰のために、どのような価値を提供するべきか、初めから定義してかかることは難しいため、論理的に事業計画を策定しても必ずしも成功しないことがあります。

なぜなら、社会課題は、問題が見えていたとしても解決する課題が分からないことが多いです。また課題が分かったとしても課題を解決するソリューション・サービスが中々明確になりません。更にソリューションが確立できたとしても誰に対してソリューション・サービスを提供すべきか、どうすれば社会に浸透できるのかも中々わかりません。

そして多様なステークホルダーの多様な声があり、そして色々なことが重要に見えるため何が本当に優先課題であり何に対してリソースを割くべきかなど、対応が難しい局面が多くあります。

「答」や要件が初めから明確ではないため長期計画遵守型の事業モデルでは推進が困難であり、SDGs事業に取り組もうとしても効果的な立ち上げと推進が中々効果的に行われないという課題認識を私たちは持っています。



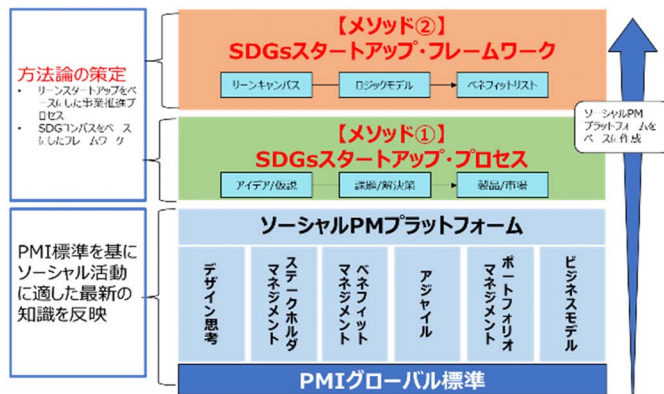
Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

◆PMI日本支部『SDGsスタートアップ研究分科会』の活動について

そのようなSDGs事業推進の課題を解決するために、PMI日本支部ソーシャルPM研究会は社会価値向上・社会課題解決を目的としたソーシャル・プロジェクトに即した『ソーシャルPMプラットフォーム』とい作成した手法を作成しました。

そのプラットフォームをベースに私たちSDGsスタートアップ研究分科会はSDGs事業の立ち上げ推進を効果的に行うための『SDGsスタートアップ手法』を開発しました。



◆今後の活動

本年度のSDGsスタートアップ分科会は昨年に引き続き

- ①SDGsプロジェクトのマネジメント手法を研修・ワークショップ形式で学ぶ「ベーシックコース」
 - ②実際に事業として行っているSDGsプロジェクトを支援する「アドバンスコース」
- の二本立てで実施しております。

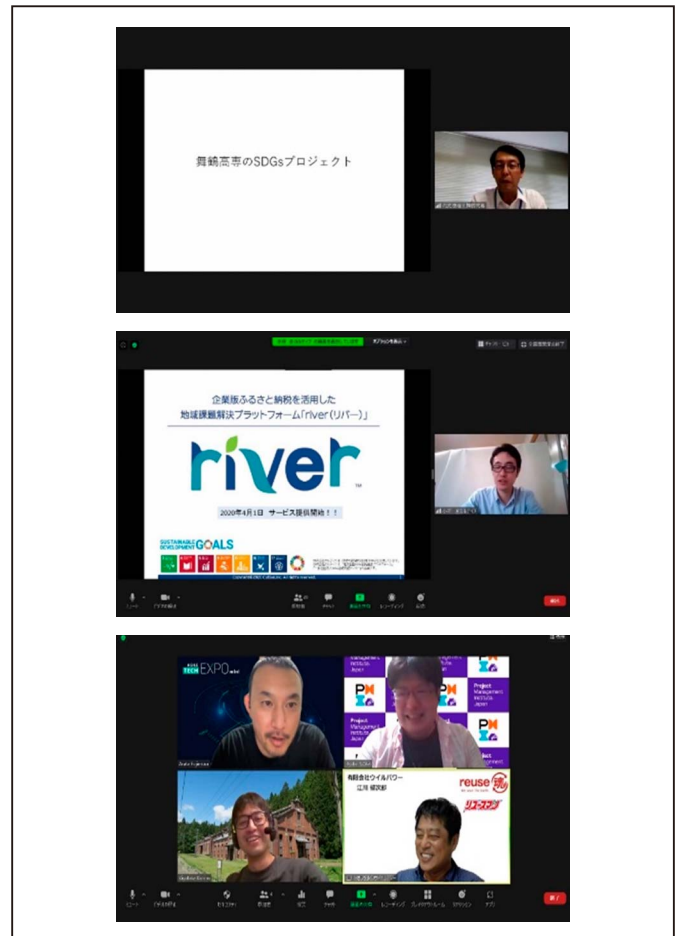
コロナ禍の状況を踏まえ当面はオンラインで開催します。

アドバンスコースについて

今年度のアドバンスコースは2021年7月にキックオフを行い、参加団体の実際のSDGs事業推進のPM支援をしています。

アドバンスコースは原則としてのベーシックコースに参加された団体で実際に実行されているSDGsプロジェクトを対象としています。既にSDGs事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

【アドバンスコースの光景】



ベーシックコースについて

毎年全3回の研修・ワークショップ形式の分科会を開催し、過去2年で40以上の企業・行政・教育機関・NPOの方々が参画しています。

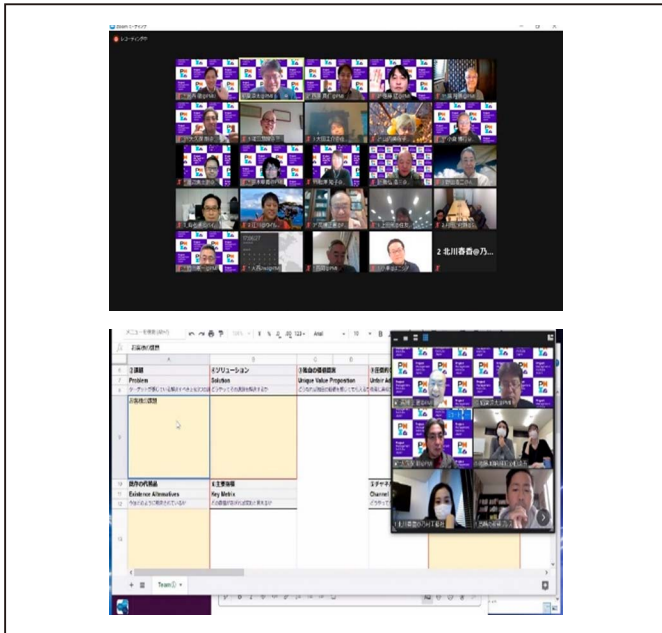
毎回、講義とワークショップを通じ、より実践的なSDGs事業のためのアウトプット作成と意見交換を行い、分科会の中でコミュニティが形成され、コミュニティの中での交流とフィードバックが新たなコレクティブインパクトを創発する分科会です。

2020年度は新型コロナ禍のためオンラインでのワークショップを行いました。オンラインの活用により各地域から多様な団体に参加していただきました。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

【ベーシックコースの光景】

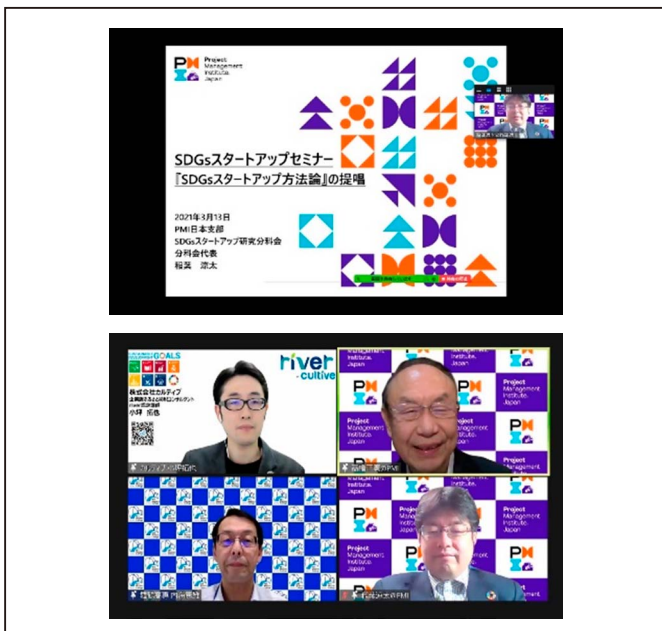


SDGs セミナー開催

2021年の3月と9月に「SDGsスタートアップセミナー」を開催し、3月は480名、9月も200名の方にお申込みいただきました。

毎回満足度95%以上の評価をいただき、SDGsスタートアップの普及促進を行っています。

【SDGs スタートアップセミナーの光景】



2021 年度ベーシックコース開講

2021年10月より、本年度のベーシックコースを開講いたします。

キックオフは10/15(金)13時からです。

当分科会への参加には「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に団体として会員登録されている必要がありますが、PMI日本支部に支部会員や法人スポンサーなどとして登録されている必要はありません。

また入会費用等は発生しません。

※詳しくはPMI日本支部のベーシックコース募集サイトとページ内の説明動画をご参照ください。

https://www.pmi-japan.org/news/info/2021_06_09_sdgs20210609.php

SDGs スタートアップ研究分科会の紹介サイト

SDGs スタートアップ研究分科会については「SDGs スタートアップ研究会分科会」紹介ページも併せてご参照ください。

https://www.pmi-japan.org/session/project/sdgs_startup.php

また、SDGs スタートアップ分科会の活動は随時PMI日本支部サイトのSDGs トピックコーナーに掲載いたします。

<https://www.pmi-japan.org/topics/sdgs/>

皆様のご参加をぜひお待ちしております。

●問い合わせ先 sdgs@pmi-japan.net

■ 3. PMBOK® セミナープログラム

PMBOK® セミナープログラム 代表 高田 善教

◆はじめに

PMBOK® セミナープログラムは、部会メンバーと事務局が一体となり PMI 日本支部主催のセミナーを開催しています。セミナーは PMBOK® ガイドを詳しく解説する内容となっており、他では類のないセミナーとなっています。受講者からは「わかりやすい」、「よくまとまっている」、「受講してよかった」などの高評価をいただいています。

部会メンバーは 17 名（2021 年 8 月現在）在籍しており、東京、神奈川、埼玉などの関東以外にも、中部、関西、九州在住の方がいらっしゃいます。IT、メーカー、製薬などさまざまな業界の方々が部会メンバーとして在籍しています。

◆活動の概要

PMBOK® セミナープログラムでは、2019 年度までは集合・対面形式で年に 2～3 回セミナーを開催してきました。しか

し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて 2020 年度以降は、非対面で受講可能なオンライン形式のセミナーに切り替えて活動を行っています。

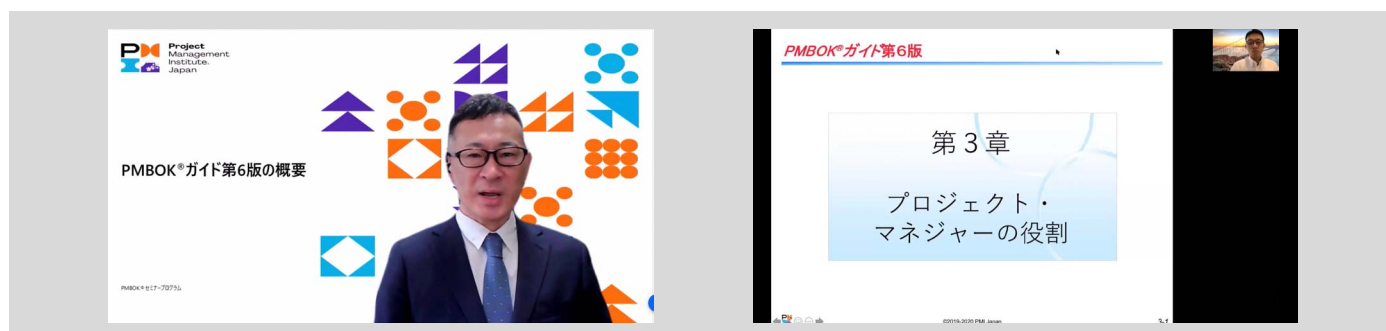
セミナー開催以外にもセミナー関連の活動を行っています。例えばセミナーで利用するテキストは PMBOK® セミナープログラムメンバーが作成しています。さらに 2020 年度以降はオンライン形式で配信するセミナー動画の制作も行ってきました。講師担当は自宅でセミナー動画を収録したり、収録した動画の編集を行ったりしてきました。

また、開催するセミナーは有償となるため一定以上の品質が求められています。集合・対面形式のセミナーの場合は、本番当日の約 2 ヶ月前からセミナーのリハーサルを行います。実際にセミナー開催する場所を使って本番さながらのセミナーを実演し、メンバー同士でフィードバックを行いながらセミナーの品質維持に努めています。2020 年度以降はオン

図 1 従来の対面式セミナー



図 2 オンデマンド・セミナー



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

ライン形式のセミナーに切り替えたため、収録した動画を確認しフィードバックを行っています。

セミナー関連の活動には、PMBOK®に関する勉強会もあります。現在、PMBOK®ガイド第7版に関する勉強会の企画・準備を行っています。第7版では構成・内容ともに大きな変更が入るため、時間をかけて勉強会を行うことを予定しています。また第7版向けセミナーのテキスト作成も予定しています。

PMBOK®セミナープログラムの定例ミーティングはZoomを使って月に1回、毎月第2金曜日に開催しています。メンバーの近況報告に始まり、セミナーの準備状況の報告や勉強会の日程調整などを話し合っています。

◆2021年度計画

2021年度の上半期（1月～6月）はオンライン形式のセミナー動画の収録に専念していました。講師担当4名が半年以上の時間をかけて動画収録を行いました。慣れない動画作成で大変苦労しましたが、6月にはセミナー動画の制作が終了し、各種の手続きを経て8月からセミナーのオンデマンド配信を開始しました。今後、受講者からの質疑応答を行っていくことになります。

<https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/3011/>

下半期(7月～12月)はPMBOK®ガイド第7版対応セミナーに向け、PMBOK®ガイド第7版の勉強会やテキスト作成準備を行っていく予定です。

◆最後に

2021年度の下半期や2022年度の活動としては、PMBOK®ガイド第7版対応セミナーの開催に向けて準備を行う予定です。第6版から大きな変更が入ることになるため、勉強会に時間をかける予定となっています。また第7版に関する理解ができた時点以降、次はセミナーテキストの作成を行っていく予定です。

PMBOK®ガイド第7版に関心がある方、知識向上を図りたい方、自分で講師をやってみたい方は、PMBOK®セミナープログラムに参加して一緒に活動をしませんか？ 2021年度に入会した方が6名（2021年8月現在）もいらっしゃいます。そのため新しく入られる方でも安心して質問したり、相談したりすることができる環境だと思います。ぜひ一緒に学び成長していきましょう。

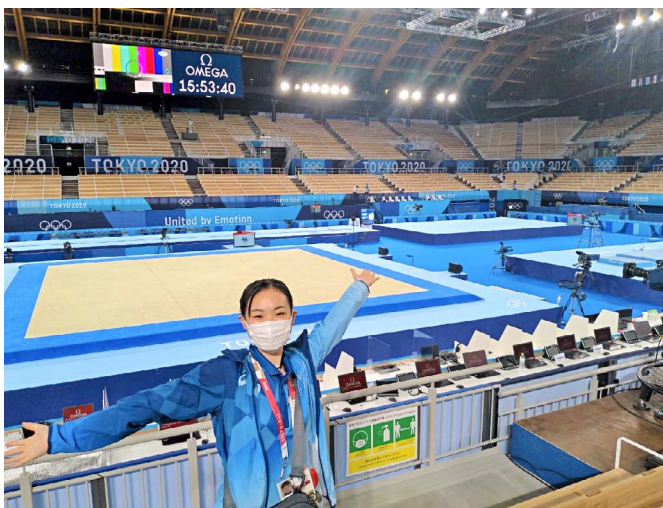
東京2020オリンピック ボランティア

武蔵大学 経済学部三年 成木 日奈子, CAPM®

1. 東京2020オリンピック ボランティア

全世界に蔓延し、なおも広がりつつある新型コロナウイルス、インドから広がったと言われる変異株（デルタ株）が日本に上陸し、日々PCR検査陽性者が増えた7月。東京では、医療関係者のワクチン2回接種が早々に終わるとともに、一般の65歳以上の方々を対象としたワクチン接種が、ボランティアを含むオリンピック関係者の優先接種と並行して開始されました。また、最後まで議論されたオリンピックの一般観客収容の是非については、無観客で開催されることが決まり、緊急事態宣言下での東京2020オリンピックの開催となりました。

このような中、今回私は、東京2020オリンピック体操・新体操競技のボランティアとして参画する機会を得ました。会場は、有明体操競技場と、練習施設のある東京ビックサイトです。ボランティアは、サービスチームとテクニカルチームに分けられ、私はサービスチームのアドミニストレータを担当しました。具体的には、アクセスコントロールというポジションとして選手やコーチ、メディアの方々など大会関係者に一番近い存在で、大会期間中過ごしやすい環境を提供するサービスです。東京2020オリンピックのプロジェクト運営面から私のボランティア活動をレポートします。



有明体操競技場にて

2. 有明体操競技場（AGC）のボランティア活動

有明体操競技場（AGC）は、体操競技、新体操、トランポリンの会場となりました。ボランティア内容は以下の通りです。ボランティア活動は自己判断ができないような場合を除き、ボランティアチームの裁量に任されていました。このため、誰かに指示を受けて行うというよりも、チーム内で自発的に行動を起こすことが必要でした。

①会場内アクレディテーションカードの選別・誘導

会場内の身分証明兼アクセスパスであるアクレディテーションカードの確認選別・誘導は、選手やコーチを観覧席に案内し、招集場所へ誘導・見送りするボランティア活動です。会場のセキュリティ上、アクレディテーションカードで関係者を確認した上で会場への誘導を行いました。選手やコーチなどから、ウォーミングアップ棟、トイレ、ラウンジといった会場内の施設に関する質問が多かったです。私は会場内のマップは事前に覚えて説明できるようにしました。

②アスリートラウンジの消毒・清掃・飲食物補充等の提供

選手やコーチなどが使用した器具や手すり、机・椅子などの消毒や掃除は毎回徹底的に行いました。また、飲食物のコーヒーマシーンやバナナ、リンゴなどの補充は定期的に行い、選手が来た際には分別の方法も率先して案内しました。特に言葉が通じなかった時には、翻訳機を使い、身振り手振りをまじえるなどして説明しました。

アスリートラウンジやトイレ・更衣室などは、自由気ままに使用する選手が多かったため、トイレドアの破損、トイレの詰まり、便器周りの飛び散り、更衣室の汚さが目立ちました。使い方や注意事項が不明瞭なものは貼り紙で対応しました。巡回と掃除を徹底し、常に清潔感を保つように心掛けました。

③選手アテンド&客席管理

試合中に選手やコーチが不用意に審判席エリアや各国のメディアと接触しないように会場の関係者エリアを分けて管理しました。管理しやすくするために選手やコーチの観覧座席を二階に設けられたため、「自国選手の競技を一階席で観覧

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■東京2020オリンピック ボランティア

できないのか」というクレームが多くありました。次の日に組織委員会の担当者によって、一階席の座席の一部が開放されたのですが、今度はコーチと審判の方が接触する場面が多くみられました。仲間の選手やコーチが自国選手の競技を近くで見たいといった気持ちも理解でき、公平性を保つためにも審判席と分けた組織委員会の意図も理解でき、難しい問題であると思いました。



選手アテンド席から見た競技会場

3. 東京ビックサイト (TBS) のボランティア活動

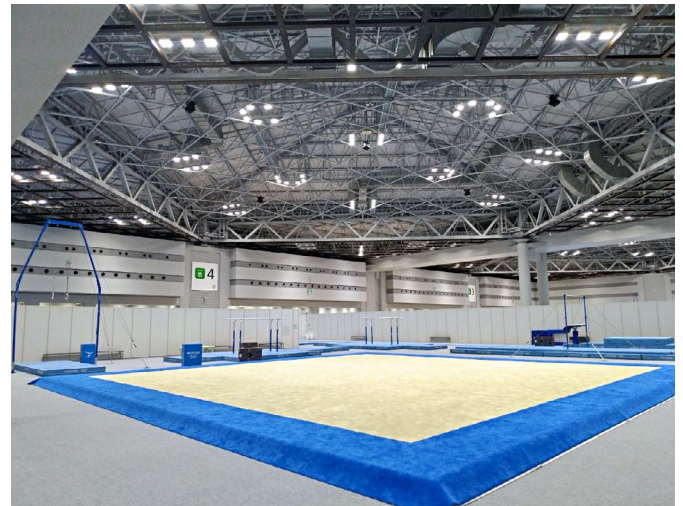
東京ビックサイト (TBS) は、体操、新体操、トランポリン選手の練習施設として使用されました。ここでは、オリンピックに臨む選手が事前練習するため、練習スケジュールの調整や選手村行のバスの放送が主となります。放送は、片言ながら英語で行いました。また、コロナ対策のために競技器具の消毒を行いました。

①練習とバス、緊急アナウンス

練習時間や次の練習チームにローテーションする時間、バス発車時間が決まっていたため、その都度、私が英語で放送しました。また、練習場内を一周見回り、ラウンジを見回り、バスに乗る人がいないかの確認と声掛けをしました。忘れ物・落とし物があつたときや緊急で練習・バスの時刻が変更になったときには、自己判断で放送を入れ、インフォメーションデスクから運転手へ伝えてもらうようにしました。

競技会場へのバスを乗り間違えたジャマイカの競技選手が、大会スタッフの判断でタクシー代を立て替えてもらい、事なきを得たという美談がニュースで報じられました。私が担当

した時にも競技場と練習会場のバスを間違えてきてしまった選手が何名かいました。大事に至る状況ではありませんでしたが、本人の代わりにタクシーを手配する対応をとりました。



体操練習会場となった東京ビックサイト

②スケジュール管理・記入

次の日のスケジュールをホワイトボードに書き、選手やコーチが一目見て理解できるようにしました。選手やコーチも写真に収めてスケジュール調整を行っている場面が見られ、文字に起こすことは役に立ったと思います。加えて、各フロアに練習スケジュールの貼り紙もしました。一方、バスの行先に練習場から競技場までの便がなかったこと、バスの運行数が少なかったことは運営面から反省すべき課題でした。

③飲食物補充

選手には常に新鮮なものを食べてもらうように心掛け、熟れて形が悪いものは破棄するなどの対応をとりました。毎日新しいものが届くために、まだ充分食べられるバナナとリンゴの廃棄が毎日大量に発生してしまいました。

4. ボランティアを終えて

東京2020オリンピックでは各会場において、選手村や競技場、練習場での衣食住など見えない部分から“おもてなし”をしようと工夫し、私たち競技スタッフも何度も研修を行い、時間をかけて事前準備をしてきました。綿密な事前計画は、プロジェクトを成功させるカギだと感じました。

開催中には選手団と組織委員会の管理側との想定外のギャップが生まれ、コンフリクトが生じてしまいました。しかし、ボランティアチームと組織委員会とのコミュニケーショ

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■東京2020オリンピック ボランティア

ンを密にして、解決することができました。状況判断と適切な対応の大切さを学びました。

バス乗車時刻や練習枠のスケジュールが変更されたことで、競技への影響など、プロジェクト全体の計画がずれ込む懸念がありました。全体への影響を考慮してチーム内で一旦確認・情報共有した上で適切に対応できたことは良かったと感じています。

おもてなしの部分では選手に新鮮で十分な食事を提供できました。しかし、食品ロスの問題（SDGs#12つくる責任 つかう責任）もあり、調達の面では発注量の調整や再利用など検討しなければならない課題が教訓として残りました。

限られたボランティア人員の中での対応でしたが、放送や声掛けを通して消毒や清掃を徹底したおかげで、一番心配された体操関係者から新型コロナウイルス感染症のクラスターが出なかったことは幸いでした。

一年延期された東京2020オリンピックは、コロナ禍、緊急事態宣言下での開催となり、最初はボランティアとしての参加を躊躇しましたが、大きなトラブルもなく無事に活動す

ることができ安堵しています。大学3年生の夏、選手に一番近い位置からサポートとおもてなしを通じて、数多くの異文化に接することができ、自身の視野が大きく広がった気がします。



ボランティアサービスチーム

Activities / 支部活動

PMI日本フォーラム2021 結果報告

日 程	7月10日(土)～7月31日(土)						
テ ー マ	デジタル革命に挑む！ ～進化するプロジェクトマネジメント～						
講演形態	リモート配信 ・ライブ配信：7月10日、11日 基調講演、招待講演、アカデミック講演の一部 ライブ配信の講演は、終了後にオンデマンドで 聴講可能 ・オンデマンド配信：7月10日(土)～31(日) 基調講演、招待講演、アカデミック講演、研究 報告講演						
講演数	全64セッション <table border="1"> <tr> <td>・基調・招待講演</td><td>12</td></tr> <tr> <td>・研究報告講演(部会、法人SG、スポンサー企業)</td><td>44</td></tr> <tr> <td>・アカデミック講演</td><td>8</td></tr> </table>	・基調・招待講演	12	・研究報告講演(部会、法人SG、スポンサー企業)	44	・アカデミック講演	8
・基調・招待講演	12						
・研究報告講演(部会、法人SG、スポンサー企業)	44						
・アカデミック講演	8						

全世界でコロナ禍が一向に治まりを見せない中、PMI日本フォーラムは今年も昨年に引き続き全講演をリモート配信することを早々に決定し準備を進めました。全国で緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令が間断なく継続する中、ライブ配信・オンデマンド配信を含めて無事盛況裡に終了することが出来ました。

講演いただいた方々をはじめ、協賛いただきました企業各社、ボランティアで運営にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

◆基調・招待講演

ライブ配信初日は、PMI日本支部 片江有利会長の挨拶に続き、PMI本部の Board DirectorsであるMr. Matt Tomlinsonから「Powering the Future of Work through Projects」と題した基調講演がありました。その後、11人の国内外の幅広い分野の識者から2日間にわたり示唆に富む講演をいただきました。

また、ライブ配信終了後は、基調・招待講演者の講演録画を即時にオンデマンドで聴講できるようにしました。オンデ

マンド聴講期間として7月31日までの3週間(昨年は1週間)を確保した結果、ライブ配信終了後に参加登録いただいた方(オンデマンド聴講のみ)が全体の8%を占め、皆さまの聴講機会の拡大を支援できたものと考えています。

◆アカデミック講演

アカデミック講演は、昨年と同様に完全オンラインでの開催となり、ライブ配信で5セッション、オンデマンド配信で3セッションの講演をご提供しましたが、今年もPBL、PM実践教育事例からキャリア教育、産学連携まで、幅広いテーマ構成となりました。人数制限のないオンラインの特性を活かし教育関係者以外にも幅広く参加していただき、300名以上の方が聴講されました。

内容的には、コロナ禍でのオンライン授業といった教育現場での工夫や苦勞、今後の展望に関するタイムリーな講演もありました。また、パネルディスカッションでは、大学の先生方からの事例紹介に対して聴講者から質問が続出し、活発なセッションとなりました。

なお、企画・運営は教育国際化委員会が中心となりアカデミック・スポンサーの大学関係の先生方にも協力をいただいで実施しました。

◆研究報告講演

研究報告講演では、昨年と同様に各講演者に事前に作成いただいた講演ビデオ(23の部会・法人スポンサー・スタディグループから37セッション、フォーラム・スポンサーから7セッション)をオンデマンドで配信しました。

PMI日本支部の各部会や法人スポンサー・スタディグループからは、PMIがグローバルに推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスクマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系、そしてソーシャル、アジャイル、AIなどに関連した講演が展開されました。また、今年の新たなトピックとしては、DX関連のテーマ、コロナ禍のフルリモート環境でのプロジェクトマネジメント取り組み

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2021 結果報告

事例、SDGs関連のテーマが目立ちました。

◆受講規模

全講演のオンデマンド聴講期間を7月31日まで設けた結果、最終的には昨年を上回り860名を超える方々から受講申し込みをいただきました。

アンケート結果から受講地域を県別にみると昨年とほぼ同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは5ヶ国（米国、シンガポール2人、デンマーク、タイ、フランス）6名の聴講がありました。

図1 受講地別人数

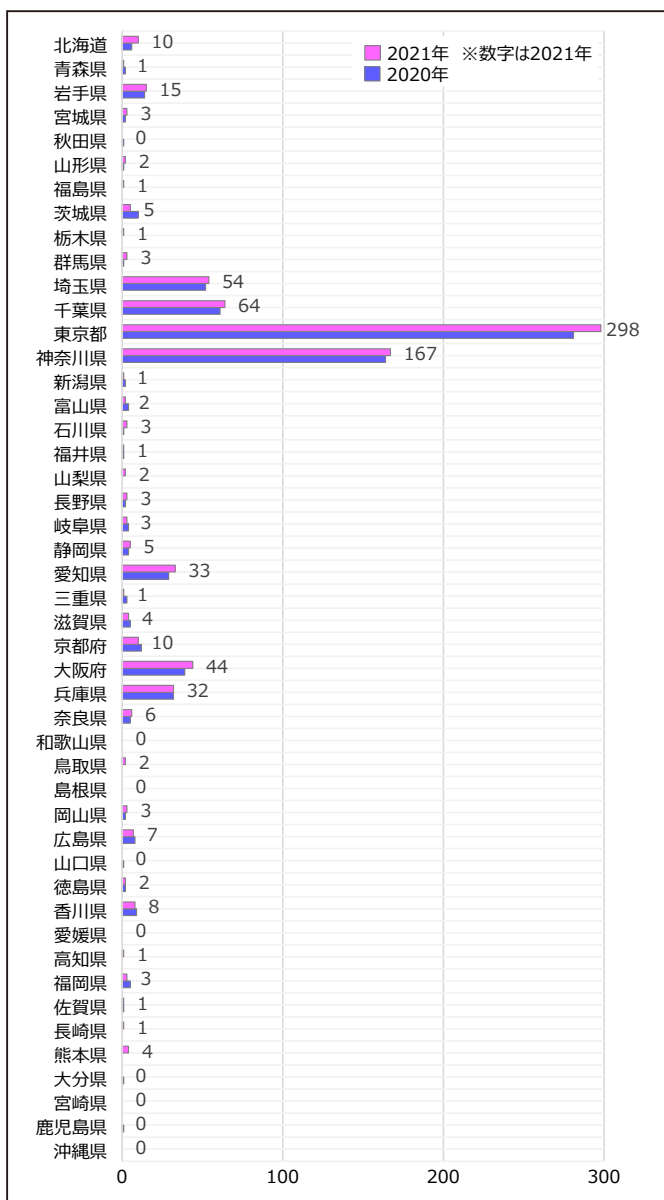
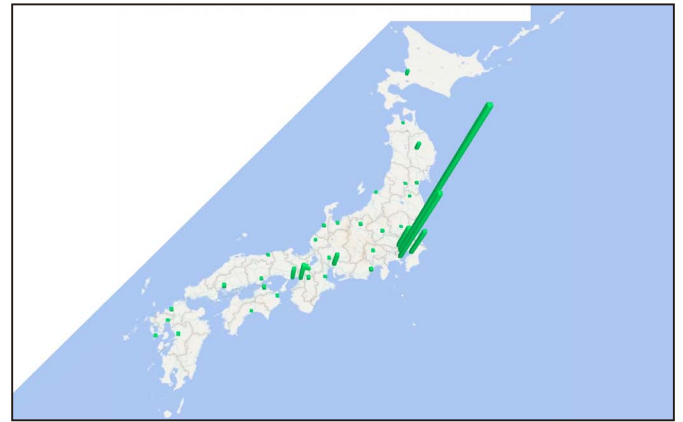


図2 2021年の視聴者分布



◆アンケート結果

総合的には「大変良かった、良かった」が98%で、昨年と同じく高い評価をいただきました。

また、オンデマンド配信期間を3週間設けたことで、オンデマンド配信だけを聴講する方が半数を超えるという結果となりました。

コロナ禍が収束した後の開催方式については、「オンライ

図3 アンケート結果：リアルタイム配信を受講したか？

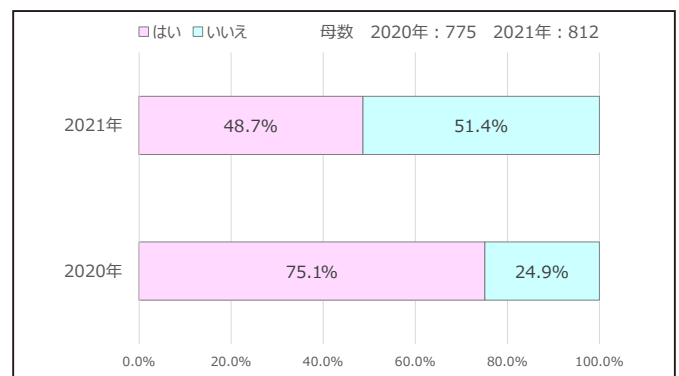
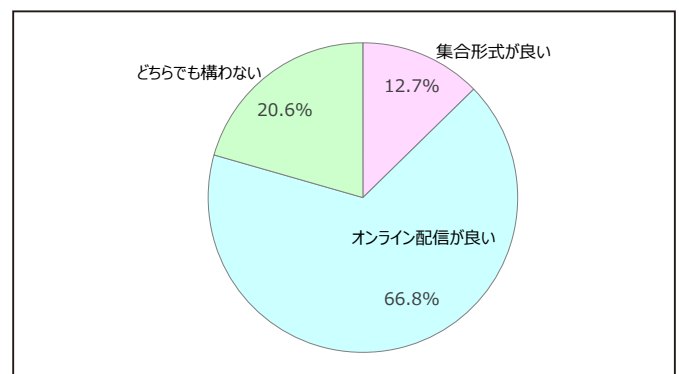


図4 アンケート結果：コロナ禍収束後のイベント開催方式



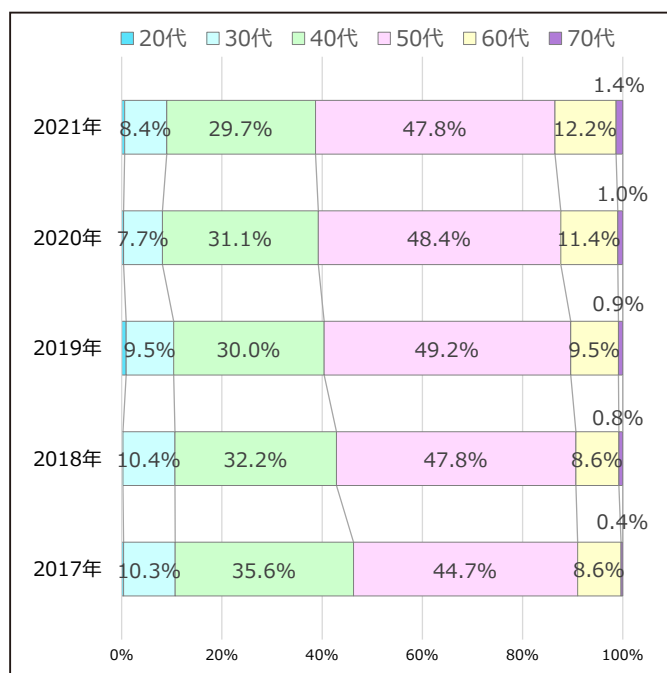
Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2021 結果報告

ン配信がよい」とする方が三分の二を占め、「集合形式がよい」とする方は約13%でした。

この数年の参加者の年齢構成を見ると、年々高齢化が進んでいることが伺い知れます。

図5 アンケート結果：参加者の年齢層の割合



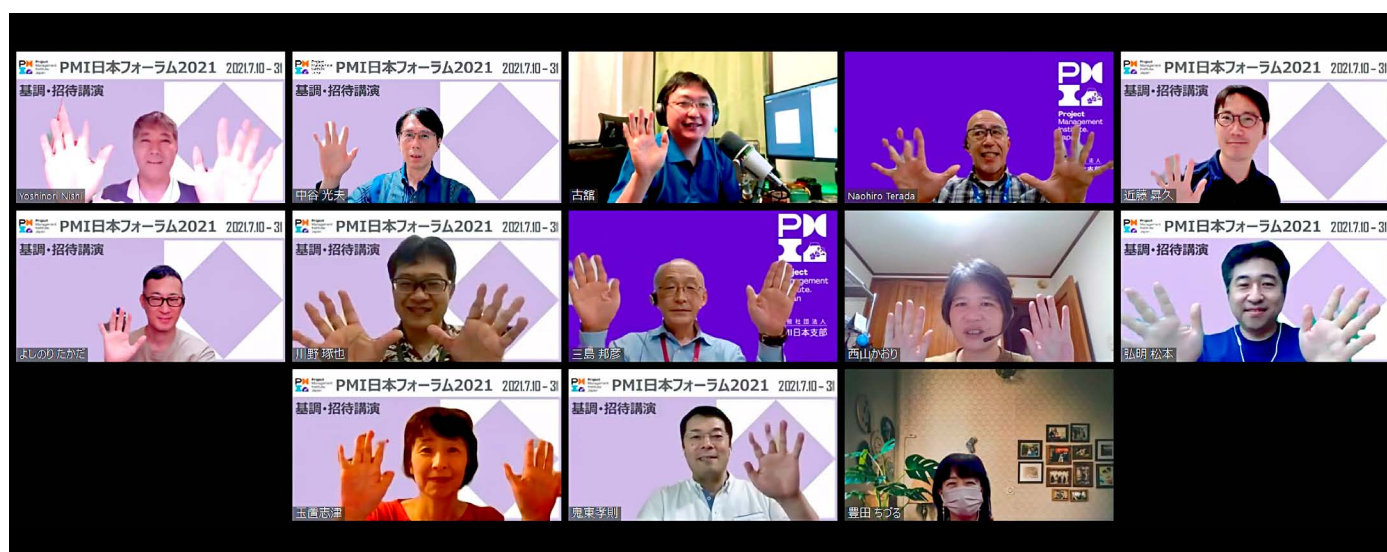
◆おわりに

PMI日本支部では、より良いサービスを目指し、2021年6月からイベント管理プラットフォーム『eventos』により構築した新システムによる運用を開始しました。従来は、参加登録については『Peatix』を、配信受講については『Zoom』を利用していたため、参加いただいた皆さま、講演いただいた皆さまには何かとご不便を強いることとなりましたが、大過なく盛況裡にフォーラム2021を終了することが出来ました。

初めてリモート配信に切り変えた昨年と同様、企画・運営には多くの課題に直面しましたが、フォーラム担当理事と事務局、特に2日間のライブ配信のリハーサルと当日運営についてはセミナープログラムのメンバーの方々の方々の多大なサポートをいただき、無事終えることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

2022年も今年と同じく夏開催とし、7月9日(土)、10日(日)の2日間にライブ配信を予定しております。今後のコロナ禍の先行きを見据え適切な開催形態を検討してまいります。皆さまからいただいたご意見を参考に、より充実したフォーラムが開催できるよう改善を図ってまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。



フォーラム2021の運営に携わったボランティア、事務局員

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
新型コロナウイルス拡大防止の観点から、全てのセミナーをリモート化して実施しています。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

- **標準セミナー：**
『PMBOK®ガイド建設拡張版』紹介セミナー
 - ・日時：10月1日(金) 19:00～21:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・2PDU
- **アジャイル基礎**
 - ・日時：10月12日(火) 9:30～18:30
 - ・形式：リモート開催
 - ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **【無料】未来創造セミナー**
「夢の力で切り拓く未来 ～教育×SDGsを通じて実現する世界平和～」
 - ・日時：10月20日(水) 19:00～21:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・PDU発行なし
- **ソーシャルPM実践ワークショップ2021 第2回**
 - ・日時：10月23日(土) 9:30～17:00
 - ・形式：リモート開催
- **オンラインミーティングでも役立つ会議ファシリテーション基礎**
 - ・日時：10月28日(木) 9:30～18:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **【無料】地域セミナー北海道**
「これからの教育が解決すべき課題、リスク」
 - ・日時：10月9日(土) 13:00～16:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・2.75PDU
- **【無料】地域セミナー東海・富士**
「地域の特性に合わせたイノベーションの発信と課題」
 - ・日時：10月16日(土) 13:00～16:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・2.75PDU
- **【無料】地域セミナー中国@広島**
「産学官における『しあわせ(Well-being)』の共創」
 - ・日時：10月23日(土) 13:00～16:00
 - ・形式：リモート開催
 - ・2.75PDU
- **AI@Work SME Discussion #2**
 - ・日時：10月27日(水) 19:00～20:15
 - ・形式：リモート開催

■ PMI日本支部関連イベント

- **PMI Japan Festa 2021**
 - ・リモート開催
 - ・日時：2021年11月6日(土)～30日(火)

講演のリアルタイム配信	：2021年11月6日(土)、7日(日)
講演のオンデマンド配信	：2021年11月6日(土)～30日(火)

【月例セミナー開催について】 2021年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

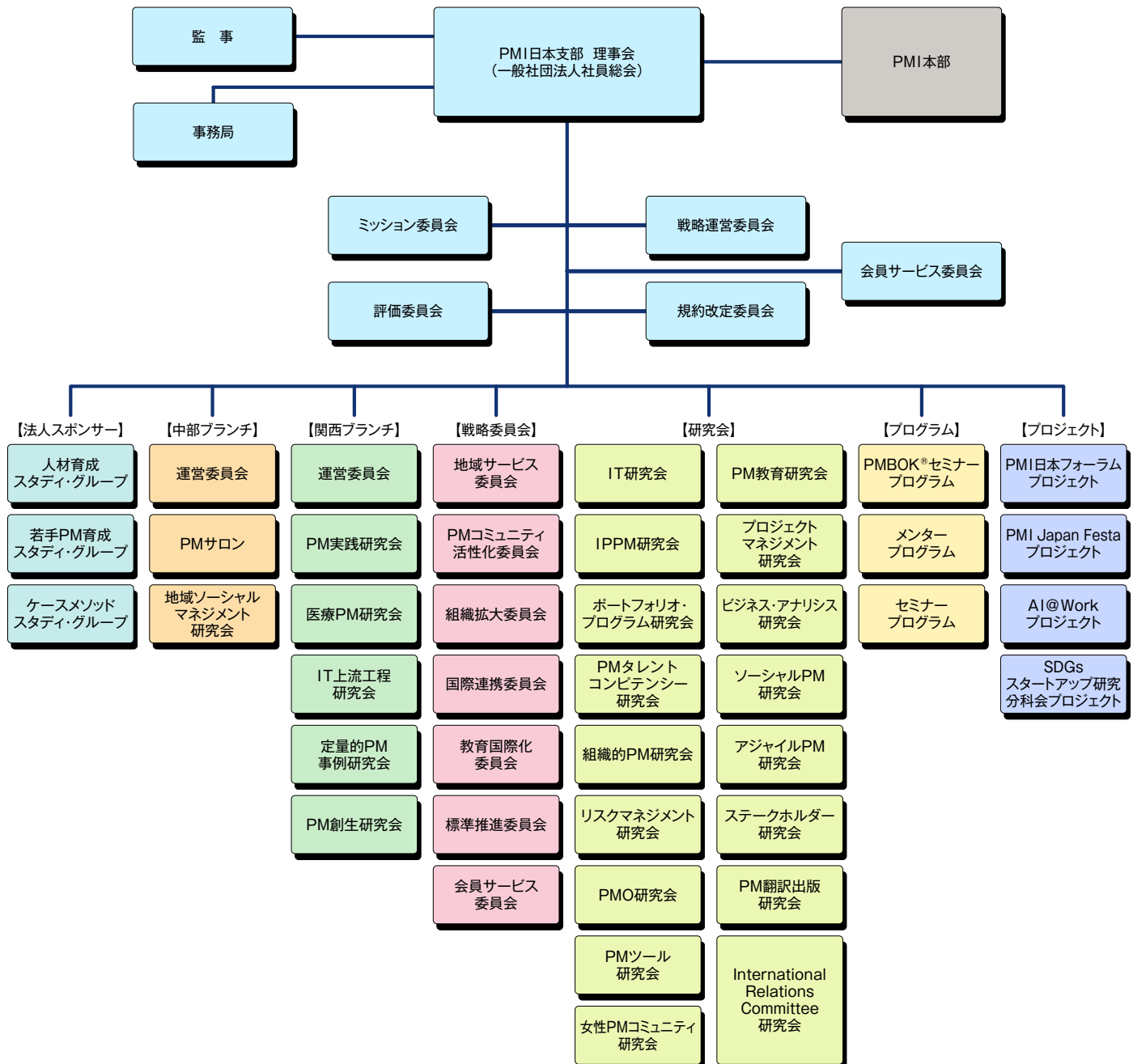
【日程(予定)】	(2021年1月23日(土) 新春特別セミナー)
	① 2021年2月19日(金)
	② 2021年3月21日(日)
	③ 2021年4月16日(金)
	④ 2021年5月15日(土) リモート
	⑤ 2021年6月18日(金) リモート
	⑥ 2021年8月20日(金) リモート
	⑦ 2021年9月17日(金) リモート
	⑧ 2021年12月

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■支部活動 (2021年9月現在)



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2021年9月現在)

会 長	片 江 有 利	株式会社システムコストマネジメント
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	浦 田 有 佳 里	TIS 株式会社
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	端 山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	森 田 公 至	キンドリルジャパン合同会社

(以下、五十音順)

理 事	井 奈 波 誠	JBCC 株式会社
理 事	井 上 雅 裕	慶應義塾大学
理 事	岩 岡 泰 夫	株式会社国際開発センター
理 事	金 子 啓 一 郎	三菱電機株式会社
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	千 葉 昌 幸	株式会社三菱総合研究所
理 事	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
理 事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理 事	藤 原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理 事	松 本 弘 明	株式会社オプティム
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	芝浦工業大学
理 事	渡 辺 哲 也	株式会社日立アカデミー
監 事	島 崎 理 一	OPTYWORKS 株式会社
監 事	山 中 良 文	JFEシステムズ株式会社
監 事	渡 辺 善 子	株式会社日本政策金融公庫、JBCC ホールディングス株式会社

■ 最新の会員・資格者情報 (2021年7月31日現在)

会員数	
PMI 本部	日本支部
664,072 人	4,715 人

資格保有者数										
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM	DASSM
世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
1,228,473 人	39,488 人	7 人	11 人	14 人	218 人	9 人	14 人	266 人	7 人	4 人

■ 行政スポンサー (2021年9月現在)

- ・三重県 桑名市
- ・滋賀県 大津市

■ 法人スポンサー 一覧 (108社、順不同、2021年9月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・プラネット株式会社
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パカード株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社パーソル総合研究所
- ・日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- ・株式会社アイテック
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- ・株式会社日立アカデミー
- ・情報技術開発株式会社
- ・アイシンク株式会社
- ・三菱総研DCS株式会社
- ・ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- ・東芝テック株式会社
- ・三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- ・株式会社三菱総合研究所
- ・NTTデータアイ株式会社
- ・日鉄ソリューションズ株式会社
- ・株式会社日立ソリューションズ
- ・日本自動化開発株式会社
- ・日揮グローバル株式会社
- ・株式会社野村総合研究所
- ・株式会社アイ・ティ・イノベーション
- ・株式会社JSOL
- ・ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- ・株式会社リコー
- ・株式会社システム情報
- ・住友電気情報システム株式会社
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- ・株式会社マネジメントソリューションズ
- ・NDIソリューションズ株式会社
- ・株式会社日立製作所
- ・株式会社システムインテグレータ
- ・日本ビジネスシステムズ株式会社
- ・コベルコシステム株式会社
- ・日本電子計算株式会社
- ・株式会社日立システムズ
- ・株式会社神戸製鋼所
- ・クオリカ株式会社
- ・株式会社エクサ
- ・株式会社ラック
- ・三菱電機株式会社
- ・TAC株式会社
- ・日本情報通信株式会社
- ・株式会社日立社会情報サービス
- ・株式会社シグマクシス
- ・株式会社TRADECREATE
- ・株式会社日本ウィルテックソリューション
- ・システムスクエア株式会社
- ・株式会社アイ・ラーニング
- ・株式会社トヨタシステムズ
- ・東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- ・株式会社ワコム
- ・NCS & A株式会社
- ・日立物流ソフトウェア株式会社
- ・SCSK株式会社
- ・株式会社東レシステムセンター
- ・ビジネステクノクラフツ株式会社
- ・SOMPOシステムズ株式会社
- ・株式会社エル・ティー・エス
- ・株式会社日立産業制御ソリューションズ
- ・MS & ADシステムズ株式会社
- ・日本クイント株式会社
- ・リコージャパン株式会社
- ・株式会社アジャイルウェア
- ・SBテクノロジー株式会社

Fact Database / データベース

- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーム株式会社
- I&Jデジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- アフラック生命保険株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- 株式会社パデコ
- MIデジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- Wrike Japan
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (49教育機関、登録順、2021年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学・地域共創センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

■委員会・部会活動内容紹介

前号に引き続き、部会活動の内容を掲載しました。今回は「ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会」、「SDGsスタートアップ研究分科会」、「PMBOK®セミナープログラム」の3つです。

■東京2020オリンピック ボランティア体験記

コロナ禍で数々の苦難を乗り越えて開催された「第32回オリンピック競技大会（2020／東京）」。

大学3年生でCAPMを取得し今年7月に支部ホームページに受験・合格体験記を投稿いただいた成木日奈子様から、今回はオリンピックでのボランティア体験記を投稿いただきました。

■PMI日本フォーラム2021結果報告

2021年7月10日から31日まで、「PMI日本フォーラム2021」を全面リモート形式で開催しました。昨年を上回る多くの参加登録をいただき、部会の一つであるセミナープログラムの面々による運営ボランティアの下、盛況裡に閉幕しました。その概要を紹介しました。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

寸前まで賛否両論が展開され、コロナ禍で非常事態宣言が発表される中、第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会が開催され、いつもながらの光景がモニター越しに展開されました。

その直前に日本支部における年間最大のイベント「PMI日本フォーラム2021」が開催され、講演者をはじめとした関係者は大イベントの「やり切った感」を享受していました。

息をつく暇もなく、11月6日・7日にライブ配信(オンデマンド配信は11月末まで)を行う「PMI Japan Festa 2021」の準備も着々と進んでいます。こちらにも、どうぞご期待ください。

PMI日本支部ニュースレター Vol.88 2021年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)